

2009.JAN

釣り人が創る逸品釣具 ぎあ・らぼ

お気楽Gear-labニュースレター第2号です。

新年あけましておめでとうございます。(^ . ^)

年末から暴走気味のDETC Hこと福山です。

Gear-lab製品をご利用ありがとうございます。

今年2009年も魂を込めてニュースレターを書き、ご購入いただいた方だけに博多より送らせていただきます。

Gear-labで現在開発中の商品やこれからの開発テーマ以外にも釣り、アウトドア、明るく楽しく元気よく「永遠に」いろんなことを書いていきたいと思っておりますので宜しくお願い申し上げます。

私は相変わらず釣具を求めて全国をまわっており、まるで寅さんのような生活をしていますが、そんななかでも全国の方々との出会いを筆頭に食と酒などお気楽な話を連載させていただく予定です。

Gear-Labは「釣り人が創る逸品釣具サイト」というテーマで楽しんでいただきたいのですが、Gear-labで買う立場としても売る立場としてもご自由に参加いただければ幸いです。



Gear-Labができるまでのおはなし (その2)

釣具製造の前にモノづくりが好きな私はあらゆる特許出願に挑戦しました。たくさんの特許出願の失敗をしたのですが、そのなかでも、会社を辞めるときにやらかした大失敗特許は「トイレの音消し装置」です。普通にある電子音ではなく、トイレに来ている水圧のエネルギーを利用した本当の水の音です。ノズルから出るジェット水の音でオシッコの音を消します。その水はタンクにそのまま貯められるので水は捨てないで済みます。

私は一番使われているTOTO様の「音姫」なるものを研究したくさんの女性トイレにも侵入したりして間違いなく異常者でした。

タンクを作り有田焼の有田市に、セン

サーメーカーにノズルメーカーに水回り専門メーカーに行き試作品製作して家族から嫌がられながらも自宅のトイレに設置し抜群の出来具合です。

節水という点でその装置に広告を貼ればそこにもビジネスができると考え営業活動をし、特許出願し、金型も作り、試作品は完璧。1998年でした。

さあ退職！やるで～！と勢いこんだのですが一週間もしないうちに今まで好意的な人たちも「個人」の私にはあまり相手をしてくれなくなりました。いままでの会社の看板を相手に仕事をしてきていたのです。どうしよう。事業がスタートしない。致命的だったのは水道器具の認可が簡単におりないことで私などの個人は全く相手にしてくれないという事実が目の前の現実になったときです。時間ばかりが流れていきます。

ついにセンサーのメーカーに行き事業断念の報告をしました。そのとき私より10歳くらい若い大手エリート社員から「福山さん。私も独立はいろいろ考えましたが、所詮無理なんですよ。起業にはお金が要りますからね。」と。私は悔しくて悔しくてあのときの情景を今でも鮮明に覚えています。この社

員の言葉は私に最大の悔しさといまに見ておれという、心の底から燃え上がる闘志を呼び起こしてくれました。

その日の夕方弟を焼鳥屋に呼び出し涙ポロポロ、泣きながら酒を飲みました。

支払い全てを終わらせると「お金がない」。大借金だけです。子供が「お父さん。50円ちょうだい。」「なんでや？」「画用紙買うけん。」「私は50円も持ってない。ハワイにいたときも失敗し貧乏をしたことがありますけどそのときは魚釣って生きてましたし辛いなど考えたことはありませんでした。でも家族がいると貧乏がこんなに辛いのかと思い知らされました。

とうとうカードキャッシングです。ひとまず食事ができました。でも返すあてがない。私は自分は働きもせず嫁さんに「パートでも行ったら？」とノー天気なことを言っていたことです。あのときの話をしたら今でも嫁さんは怒り出します。(*_*)

そのあと根掛かり無用ROCKを開発して販売開始するのですが、最初にネットで売れたのが3,000円です。

月商3,000円からスタートです。私は喜び勇んで嬉しくて嬉しくて居酒屋で10,000円使ってきました。(^^)

最初の私はやることなすこと全て失敗ばかりだったのです。

Gear-labは普通の釣具店にはない新しく夢のある逸品釣具を紹介し続けます。全国の熱い人たちと共に本当に良いものを世の中に出すことに真剣であり常識にとらわれない商品開発や逸品釣具を求める方とのみチームを組んでいきます。



日本の鮎釣り竿から宇宙の人工衛星が

日本製はやっぱり今でも凄い製品が多いです。

つまりMade in Japan は世界に誇れるものが多いのです。

日本製の釣具は世界一です。特にロッドとリールがそうです。アメリカに行き中古釣具のガレージセールでは日本製を置いてると黒山のたかりです。それほど今でも日本製は重宝がられます。アメリカにはバットマンの安い釣具が反乱しています。でも専門店に行くと高級な釣具が確かに存在するのです。その中でもやっぱりロッドはシマノとダイワです。

日本の釣り竿は、最初江戸時代から竹製の逸品といわれる和竿から始まり、グラスロッド、そして今のカーボン繊維に移り変わっていくのですが、その中でも一番長くて強さを要求される鮎竿の技術は日本独特のものです。東レとオリンピックが共同開発を進めていきましたが、あの薄さと長さには世界では拮抗する相手はいません。日本製の技術は最高なのです。毎年F-1レース車体用の素材としてその年の一番高級な鮎竿が購入されF-1の車体の技術開発に貢献しています。また宇宙に飛び交う人工衛星躯体の技術は鮎竿からやってきているのです。

東レの人たちは「鮎がいたから人工衛星が飛んでいるんだ」と言うくらいです。

Made in Japan は日本人が誇りを持つべき製品です。

徒然なるGear-Lab

12月は3点の力作サンドカート、爆釣天秤、フッカーヤエンをリリースさせていただきましたが、1月もその勢いで暴走しようと目が爛々として怪しいいつもの私でした。

しかし、いつものこと酒に食事に卑しい私は元旦からおせち料理を食べ過ぎてなんとなくと食中毒です。

子供のときから海老が大好きで何度も海老に痛い目にあわされていますが、今回もミソたっぷりの大海老がむっちゃ旨かったんです。(〜;) なんとも学習能力のない私。2日はノックダウンされ、布団の中でうんうん唸っていました。

今日はPC前に座っていますが、弱ったヒヨコのように元気ないです。

そんなときに悪友からの夜のお誘いの電話が……。

今、行こうか行くまいか迷ってます。(>_<)

うん？こうしているときイギリスから鯉釣りの製品でこりゃまた面白い素材が届きました。

こりゃあカゴ釣り、投げ釣り、防波堤釣りはもちろん筏釣りにも使える新素材です。

ではでは呑みに行ってきたま〜す。(´ 〇 ´) \(-;-) バキッ!

ムシエサ遠投オモリ製作中です。

アジ遠投ウキやアジ遠投オモリをリリースしてきましたが、これを作るのに約7年もかかってしまいました。ところが、このシンプルな形状はいろいろ使えることがわかり、早速お客様から「ムシエサ遠投オモリ」を作ってくれとの製造依頼です。アジ遠投オモリを小さくしたものなのですが、これができる針に房掛けしたムシエサを遠投可能になるというものです。アオケブやボケやユムシなんでも遠投できます。特に今の季節はてんこ盛りしたエサはカレイ釣りには絶対に有利な釣り方になりますね。

誰も投げ込んだことのないポイントに大きなエサを投げ込むことはどうなるか……。むふふふつ (〜。〜)

プチ三脚開発中です。

三脚って結構場所とるもんですよ〜。置き竿で投げ釣りに行くときは道具箱には入らないし竿バッグに入れたらスペースとってしまうし竿は傷つくし。そこで道具箱の片隅にちょいと入れられるプチ三脚を開発中です。竿を防波堤の上に寝せると傷がつくので嫌ですが、このプチ三脚は重心が低く高さは18cmくらいしかありません。そしてなによりもカッコ良くない駄目ですね。機能性はもちろん良く、小さいですが防波堤では目立つ存在だと思います。

最終詰め段階です。

株式会社ギアラボ

〒813-0016 福岡市東区香椎浜2丁目5-2-701

Tel 092-663-5196

Fax 092-663-5102

Mail NQE50210@nifty.com

Gear-labホームページ

<http://www.gear-lab.com>

毎月の新製品に追われ、全国を旅しながら、モノづくりと販売のお手伝いをしています。

お気軽にメールください。面白い釣具があれば全国どこへでも参上します！一杯呑みましょう。(〜。〜)



メール NQE50210@nifty.com お気楽DEATCHこと福山でした
携帯 090-8406-9591